

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 1月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	0770301703		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	健康倶楽部郡山 グループホーム「希の家」		
所在地	〒963-0201 福島県郡山市大槻町東阿良久 3 7 番地 (電話) 024-962-0523		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年12月15日	評価確定日	平成21年1月22日

【情報提供票より】(平成 20年 11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	14.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨ラーメン 造り		
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷 金	有 (円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護 1	4 名	要介護 2	3 名		
要介護 3	6 名	要介護 4	3 名		
要介護 5	2 名	要支援 2	名		
年齢	平均 82.9 歳	最低	71 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	財団法人 金森和心会、針生ヶ丘病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設後丸5年経過した事業所で、管理者を中心に全職員がサービスの質の向上に向けて真摯に取り組んでいる。法人がISOを取得しているのに伴い、職員は年2回、上期、下期に各自目標を立て、各自の目標は職員室に掲示しており、各期の終了時には自己評価をし、それを管理者と話し合い法人からの評価を得ている。また、月1回利用者の思いや希望を把握するための会議「希クラブ」を開催して利用者の思いの把握に努めている。利用者は「会議に出席」という改まった気持で参加し、いつもと違う雰囲気の中で自分の希望や思いを話しており、出された希望や思いを職員は実行に向けて取り組んでいる。実行したこと、できなかったこと、実行予定等も会議の中で報告し、利用者本位のケアを実践しているのがうかがえる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では取り組みを期待したい内容として、看取りの体制の整備については改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は日ごろのケアを振り返りながら全職員で取り組んだ。外部評価の結果は運営推進会議に報告し、さらにサービスの質の向上に努めることにしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	運営推進会議は定期的に奇数月に開催している。内容は事業所の状況報告だけでなく、防災対策、地域との交流策等多岐にわたっており、委員からは積極的・建設的な提案や意見が多く出され、運営に反映させている。参加者メンバーは運営推進会議の意義や役割を十分理解している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議には家族の代表が出席し、積極的に意見交換をしている。また、家族の訪問時には利用者の状況報告を行い、家族の意見の把握に努めている。年2回開催している家族会には多くの家族の参加があり、交流会では家族の意見や要望を聴取し、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、地域の行事には積極的に参加している。運営推進委員の協力を得て、地域消防団や公民館等との交流が増えてきている。また、地域ボランティアや小学校の課外授業を受け入れている。小学生とはその後も事業所訪問や手紙で交流している。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを踏まえた理念となっており、地域社会との交流を大切により良い地域づくりに貢献することをうたっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議やカンファレンス時には職員で唱和し共有に努め、全職員が理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域向けの広報紙を発行し、町内会で回覧してもらい事業所の情報を発信している。地域の行事(夏祭り、盆踊り等)には積極的に参加し日常的に地域と交流している。開設後5年経過した現在地域に根ざした事業所となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はじめ職員は評価の意義を理解しており、自己評価は日ごろのケアを振り返りながら全職員で取り組み、サービスの向上に活かしている。外部評価の結果は運営推進会議や職員会議に報告し、協議している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に奇数月に開催している。毎回委員から活発な意見が出されている。委員から公民館行事の「いきいきサロン」で事業所のパンフレットの配布について提案があり実施したところ、地域住民に広く認識され、ボランティア等の訪問が増えている。運営推進会議の意義を十分活かした会議となっている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	担当者から利用者の生活状況や健康状態を写真や「希たより」を添えて報告しており、状態の変化があった場合にはその都度連絡している。金銭管理は行っておらず、立替払いで対応しているが、自分で管理している利用者には買物の際に支援している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会のほかにも誕生会や各行事には家族の参加があり、機会あるごとに意見を聴取し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	本年は法人が新しくグループホームを開設したのに伴い数名の異動があり、また止むを得ない事情での職員の退職もあった。利用者へのダメージを防ぐため、異動時には管理者や職員が十分利用者に説明し、職員間では適切な申し送りを行い引き継ぎをしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修計画に基づき職員の段階に応じて研修を受講させており、資格取得の学習会にも参加させている。また事業所内では月1回勉強会を実施し、職員同士が「働きながらの学び」を実践している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県認知症グループホーム連絡協議会の研修会に交代で参加し、他の事業所と交流し意見交換をしている。また、同法人内の事業所と相互訪問等で交流し、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活で季節の行事や慣わしを利用者から教えてもらい、お互いに支えあいながら生活している。保健婦をしていた利用者からはみかんは風邪の予防になる等のアドバイスがあり、メニューに取り入れるなど、参考にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用してできること、できないことや生活リズムを把握し、利用者本位の生活支援に役立てている。また、利用者の思いや希望の把握のための会議「希クラブ」を月1回開催し、利用者の思いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族、関係者の意見や希望、利用者の能力などをアセスメントで把握し、全職員が意見を出し合ってケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、全職員が毎日利用者の状態（不眠、つまづき、不安定歩行、転倒、補聴器、義歯の不具合、不安定行動）などのヒヤリハットを毎日詳細に記録し、それを分析して介護計画の見直しをしており、現状に即した介護計画となっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医の受診を支援しており、受診には家族が同行しているが状況によっては職員も同行している。かかりつけ医の往診もある。また、協力医療機関への受診は職員が対応し、受診後に家族に連絡し情報を共有をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人は重度化や終末期に向けた指針を作成し、家族の意向を確認しており、看取りの対応を整備しているが、新しい職員は看取りに対する不安がある。		経験の少ない職員の看取りに対しての不安をなくすため、指針に基づく研修を計画的に実施され、職員間で対応の共有をすることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者の生活歴を大切にし、誇りやプライバシーを損ねることのない言葉かけに配慮し、利用者一人ひとりに合わせた支援をしている。職員同士の言葉使いにも十分配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が一人ひとり自分のペースで生活できるよう起床、就床、作業、レクリエーションなど希望に沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みのもや季節の食材を取り入れた献立で、利用者はそれぞれ自分のできること（下ごしらえ、盛り付け、配膳、片付けなど）を職員と一緒にやっている。職員も一緒に食卓を囲み、楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間や回数は利用者の希望により支援しており、入浴拒否者には音楽をかけたり、時間や声かけ職員を変えて支援している。また、利用者の羞恥心や抵抗感には十分配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	利用者の趣味（書道、大正琴、踊り等）が続けられるように支援している。また、料理、雑巾縫い、洗濯物たたみ、掃除など能力を活かした役割や楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	散歩や医療機関受診を兼ねた買い物、ドライブ、テラスでのお茶など希望に応じて実施している。また、年1回「希叶えますツアー」として利用者各自の希望をかなえる機会を作り、お墓参り、自宅訪問、ご主人が入居している施設訪問等を企画をしており、利用者の楽しみとなっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることの弊害を理解し、さりげない声かけ、行動観察によって鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受け、年2回の防災訓練を実施している。運営推進会議を通して地元の消防団との協力体制は確保されている。近隣住民への働きかけもされているが、十分とはいえない。非常時の食料品等は備蓄されている。	○	災害や火災時には近隣住民の協力が必要不可欠であるので、さらに近隣住民へ働きかけを行い、協力が得られる体制を構築されとなお良いと思われる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じ食事や水分の摂取量を把握している。利用者の状態によっては補食や栄養補助飲料の摂取を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は穏やかな光になっている。行事の写真、のれん、鉢植えなどがあり、金魚を飼育するなど生活感、季節感を感じられる共有空間になっている。テーブルやソファが機能的に配置され、畳敷きのスペースにはコタツがあり、利用者が自由にくつろいでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベッド、タンス、鏡台、テレビなどを持ち込み、趣味の絵や書、家族の写真等を飾り居心地よく生活できるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 健康倶楽部郡山
グループホーム「希の家」
記入担当者名 高橋 郁子

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。